

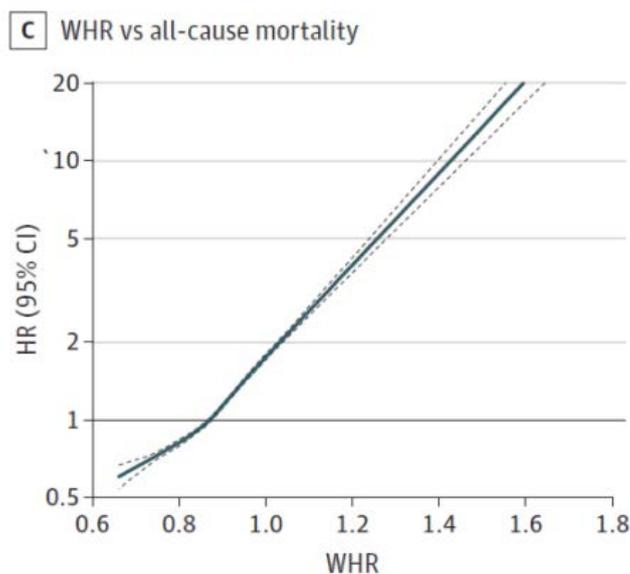
# 新たな肥満指標！ 体格指数(BMI)よりもウェストヒップ比(WHR)

(2024年9月)

肥満の有病率が増加し、世界人口の約3分の1に達しています。WHOはBMI（体格指数またはボディマス指数）が24.5以上を肥満と定義していますが、最近の研究では、死亡リスクが最も低くなるBMIは人によって異なるため、肥満度の測定方法としてBMIは適さない可能性が指摘されています。

最適に肥満度を測定するには、死亡など有害な結果との強い因果関係を持ち、測定が容易であることが必要です。Irfan Khanら（JAMA Network Open 2023）はBMIに代わる候補としてウェストヒップ比（WHR）と死亡率との関連性を観察研究と遺伝子変異から厳密に因果関係を推論するメンデルランダム化法を用いて分析を行いました。その結果、WHR（ウェストヒップ比）がBMIよりも全死亡率との関連が強く、特に心血管疾患による死亡率との関連が強いことが示されました。

私たちの研究（Akane Kohnoら Sleep 2019）でも、WHRの増加が、吸気時に気道を拡大するメカニズムであるcaudal tractionを弱めたり、機能的残気量（FRC）を減少させることが示唆されました。前者により気道が閉塞しやすくなり、睡眠時無呼吸が悪化します。後者により肺でのガス交換が効率的に行われなくなり、無呼吸による低酸素血症がさらに悪化します。これらは共に人体に有害な結果を招く危険性があります。



WHRと全死亡率の間には有意な単調増加の関連が見られた